

## 1. これまでの審議内容

### (1) 魅力発信の目的・対象

○子どもを含めた若い世代が、これからも麻生区に住み続けてほしいということから、「麻生区に住む子育て世代を対象」とし、区の魅力を伝えることが検討された。

⇒子育て世代のうち、親と子の両方に伝わりやすく、より効果的に発信できると考えられることなどから、まずは小学生を持つ子育て世代を中心に考えていくことが確認された。

### (2) 審議テーマ

ふるさと麻生づくり ～愛着と誇りの醸成～

○区民に麻生区をもっと好きになってもらい、ふるさととしての魅力を感じてもらうことで、今後も住み続けてもらうことを目指す。特に新しく住みはじめた子育て世代が、麻生区をふるさとと感じてもらい、その子どもたちが大きくなって住み続けてもらうことを目指す。

## 2. 子育てフェスタヒアリング結果

○麻生区の魅力、魅力の発信方法、発信場所について、子育て世代の意見を把握するために、9月16日に開催された子育てフェスタにおいて、麻生区の魅力発信に関するヒアリング調査を行った。

(回答者数：女性 106人 男性 45人 合計 151人)

問1. 麻生区の魅力は「自然と農」、「芸術」、「市民活動」であると感じるか。

		自然と農	芸術のまち	市民活動が盛ん
そう感じる	女性	89人	77人	67人
	男性	40人	37人	29人
	合計	129人	114人	96人
そう感じない	女性	4人	7人	13人
	男性	0人	1人	4人
	合計	4人	8人	15人

⇒麻生区の魅力が「自然と農」「芸術のまち」「市民参加が盛ん」であると認識している人は多く、部会での検討内容と一般区民の認識にずれは無いと思われる。

問2. 麻生区の魅力を詳しく調べてもらうためには、どこで、どのように発信すれば届くと思うか。

<発信方法>

	市政だより、区・市民館・図書館など公共施設に置く冊子・チラシ	市や区のホームページ、市や区のSNS・アプリ	お店のポスター（自宅近く、駅周辺など）	幼稚園・保育園・学校で配布されるチラシ	マイタウン、メディアあさお、タウンニュースなどの地域情報誌、新聞地域面など
女性	57人	30人	13人	53人	69人
男性	25人	5人	6人	23人	25人
合計	82人	35人	19人	76人	94人

⇒新聞や地域情報誌など自宅に直接届くものに次いで、公共施設に置かれる冊子類や、保育園や学校等で配布されるチラシ等が情報として受け取りやすいとの回答が多かった。子育て世代は、あまり外出できない家庭も多く、家庭に持ち込まれる情報の方が接しやすいことと、信用度が高い発信元が好まれることがわかった。

⇒ホームページやSNS等を使用した情報発信を選ぶ人もいたが、紙媒体での情報発信を選んだ人の方が圧倒的に多かった。情報を受け取りやすく、手元においていつでも見られるという利点が好まれていると思われる。

<発信場所>

	区役所、市民館、図書館、こども文化センター	幼稚園、保育園、学校	駅、スーパー、コンビニ	区民まつり、しんゆりマルシェなど
女性	43人	36人	25人	18人
男性	13人	9人	11人	4人
合計	56人	45人	36人	22人

⇒「区役所、市民館、図書館、こども文化センター」や「幼稚園、保育園、学校」から発信される情報の方が、「駅、スーパー、コンビニ」やイベント等で発信される情報よりも受け取りやすく、信用度が高い発信元から得られる情報の方が好まれることがわかった。

## 3. 今後の審議内容

○子育てフェスタのヒアリング調査結果を踏まえて、今後の部会では以下について検討する。

- (1) 麻生区の魅力
- (2) 魅力の発信方法・発信場所
- (3) 発信主体

### (1) 麻生区の魅力について

○本部会で発信する麻生区の魅力について、現段階では次のとおりと考える。

#### 自然と農、芸術・文化、市民活動が身近に感じられる麻生区

・麻生区は、都心に近いまちですが、田んぼや畑、里山などの緑が多く残り、芸術に関わる活動が盛ん、市民活動が盛んなまちです。

#### ■都心近くの自然と農が残るまち

・麻生区は、都心に近いまちですが、自然が多くあり、田んぼや畑のような、なつかしい里の風景が残ります。いつでも地元産新鮮野菜を食べることができます。

### ■芸術・文化のまち

- ・麻生区は、芸術・文化のまちと言われており、芸術・文化活動が盛んなまちです。さまざまな芸術や文化活動が日々行われており、身近なところで本物の芸術や文化にふれられたり、体験して楽しむことができます。
- ・昭和音楽大学や日本映画大学があり、アーティストを目指す人たちが集まるまちです。また、子どもたちをはじめとした、地元の方を対象とした体験型のイベントなど、芸術・文化にふれあえる機会もあります。

### ■市民活動が盛んなまち

- ・麻生区では、他区に比べて市民活動団体が多く、ボランティア・市民活動が盛んなまちです。緑が多く残っていることや、芸術に関わる取組が盛んなのも、市民活動によるところが大きいと言えます。
- ・市民のまちづくり参加への意識が高いことから市民活動に参加する人が多く、区内各地で地域交流イベントなど、さまざまな活動が行われています。このようなこともあり、住みやすいまちと言えます。

### ■魅力を身近に感じ、参加できるまち

- ・麻生区は、安全で安心なまちであることに加え、さまざまな魅力が身近にあり、誰もが参加・体験できます。子どもたちの情操教育に良いなど、子育て世代にも魅力のあるまちです。

## (2) 発信方法について

○ヒアリング調査では、「区役所、市民館・図書館、こども文化センター」、「幼稚園、保育園、学校」などで、冊子やチラシを配布すると情報が届きやすいという意見が多かったことから、発信方法については、冊子やチラシなどの紙媒体を中心に検討することが確認された。

### ①冊子について

#### 1) 冊子の概要

- ・冊子については、小学生低学年の親を対象とする。
- ・親子で見て楽しいもの、関心の持てるものを意識し、写真やイラストを多く使い、視覚的に印象に残るような冊子を作成する。また、学校を通じて配ることが有効であることから、小学校で配ることができるものを意識して作成する。

## 2) 冊子の内容イメージ

○発信する冊子の内容については、先に示した概要を踏まえて下記のとおり検討している。

### 1. 麻生区の成り立ち

- ・麻生区の成り立ちについては、「自然と農」「芸術・文化」「市民活動」に関わるものを掲載する。
- ・麻生区が誕生する前後あたりの時期からの成り立ちを掲載する。

### 2. 麻生区の魅力の紹介

- ・麻生区の魅力「自然と農」「芸術・文化」「市民活動」に関わるもので、親子で一緒に体感・体験・参加できるものを載せる。
- ・当冊子の位置づけとしては、事細かに詳しく紹介することよりも、既存の冊子や主催している団体などにつなげることに重きを置く。

### ②発信場所（冊子等の置き場所・配布場所）について

- 小学校を中心に配布する。学校を通じて子どもたちに配布する。家に帰ってから親子で見られるようにする。
- 区役所、市民館・図書館、こども文化センターなどの公共施設で手にとってもらえるように、各施設に置いてもらう。  
→区役所などの公共施設であれば、麻生区の魅力コーナー（ラックのようなもの）を設置する。そこでは、当冊子やすでに発行されている魅力に関する冊子やチラシ、資料も併せて置く。

### ③他の発信手法について

- 冊子をホームページでも見られるようにする。合わせて SNS なども活用し、多くの区民に見てもらえるようにする。

## (3) 発信主体について

- 魅力を発信する主体については、柔軟に取材活動ができることが重要なことから、市民主体、もしくは市民と行政の協働の組織を発足することを検討する。